

## 小千谷市自殺対策計画（案）に対するパブリックコメント（市民意見募集）の結果について

### 1. パブリックコメント実施状況

(1) 意見募集の期間 平成29年12月25日（月）～平成30年1月25日（木）

(2) 意見募集の結果 提出状況 9件（4者）

### 2. 意見の概要と市の考え方

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え方	修正の有無
1	17 ページ 第4章 第1節 (2)	高齢者に対する支援の方向性（課題の再確認） ・震災後の孤立予防、生きがい活動支援の箇所は、「地域の実情に応じて事業の充実・強化が必要です」の箇所を「地域の実情に応じて今後も各関係機関等と協働し、地域での支えあいの体制の強化が必要です」と変えたほうが良いと思います。	・事業の充実・強化の具体的な表現となりますので、「デイホームの充実に加え、地域での支えあいの体制の強化が必要です。」とします。	有
2	17 ページ 第4章 第1節 (2)	高齢者に対する支援の方向性（課題の再確認） ・「生活支援コーディネーター」の件ですが、コーディネート（第三層）にあたる方は市民となるため、一般的なゲートキーパー養成講座等への参加で良いと思われます。この箇所は削除して良いのでは。	・生活支援コーディネーターは、介護保険生活支援体制整備事業においてその配置と役割が位置づけられ、「高齢者が住みなれた地域で安心して暮らしていくための地域における支えあいの体制作り」において欠かせない存在です。高齢者がいきいきと暮らしていけるように、自殺予防の視点も含めた協働した取組が望まれます。 ・生活支援コーディネーターの取組は開始されたばかりで、今後その役割が明確になっていくことから、17 ページの (2) 課題の再確認の箇所ではなく、方向性及び目標に「高齢者が住みなれた地域で安心して暮らしていくための地域における支えあいの体制作りに生活支援コーディネーターは欠かせない存在です。今後、地域で高齢者がいきいきと暮らしていくために協働した取組を行います。」と追記します。	有

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え方	修正の有無
3	18 ページ 第 4 章 第 1 節 (3)	若年世代への支援の方向性（方向性及び目標） ・相談窓口の敷居が高く、「青少年育成センター」という名前だけで引いてしまう子どももいる。若年世代ウケしやすい愛称などに変更することもご一考ください。	・平成 28 年度の青少年育成センターの相談者実人数は 226 件で、自分の気持ちや抱えている悩みを誰かに聴いてもらいたい、励ましてほしいという相談が寄せられています。 ・御提案の内容につきましては、今後、関係機関からの意見を聞きながら、相談しやすい窓口の体制づくりに努めてまいります。	無
4	市民への計画の周知方法	・市民が計画を目にすることは少ないと思われるので、「市の自殺率が高いこと、誰にでも起こり得ること、様々な相談機関があり自殺は防ぐことのできる社会的な問題であること等」を概要版やポスターにして公共施設や病院、事業所、学校等に配置または掲示することで多くの方に周知していくと良いと思います。	・計画内容についての周知は概要版を作製し、関係機関を中心に配布予定です。市民への周知については広報や FM ラジオ等の活用とともに、市民に届くものをチラシやポスター等だけではなく、講座や研修会等の機会を通じて実施していきます。	無
5	ネットへの対策	・自殺を考えているとき行動に移す前のある一時期においてシグナルを出す方が多いです。今後、SNS をはじめとするネットのサイバーパトロール等の必要性も出てくるかと思いません。	・平成 29 年 12 月 19 日関係閣僚会議において、SNS 等の自殺に関する不適切な書き込みへの対策やインターネットを通じた自殺願望を発信する若者の心のケアの対策について協議されました。その中で、若者への SOS の出し方に関する教育、居場所づくりとともに SNS 等に対応した相談窓口への誘導の強化等、政府一体となって迅速に取り組むことと明記されました。今後の国の動向を確認し、県単位レベルでの対応により働きかけていきます。	無

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え方	修正の有無
6	全般 ゲートキーパーの養成	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲートキーパーの養成についてスタンスが見えません。人数を増やし、誰もが自殺に対する意識を高めることに重点を置くのか、ある程度の資質を必要とし、本当の意味で命の門番を養成するのかで効果が変わってくると思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲートキーパー養成講座の目的は、自殺予防に関心のある人を対象に、地域で相談につながっていない人をつないでもらう役割の人を増やすことを第1の目的として行っています。</li> <li>市民の自殺に対する意識を高める取組においては、広報や相談窓口での周知、講演会等の他に、ゲートキーパーからの地域の人への伝達、関係機関への発信等様々な協力者の力を借りて広げていきたいと考えます。</li> <li>養成講座の参加者に対しては、1回の受講にとどまらず、継続して研修会等の案内を行っており、ゲートキーパーの資質向上に努めています。</li> <li>21 ページの (2) ②課題の再確認の中に、「自分から支援を求めることが難しい人への支援が課題であること」「ゲートキーパー養成の目的」を追記します。</li> </ul>	有
7	全般 自殺未遂者への対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>潜在している自殺経験者の方への対策が必要と思います。また、そこから立ち上がり、再度人生に向き合っている方々の体験談などを聞くなど、自殺をタブー視せず誰もが自殺を考える可能性があることを、そこから立ち上がることができることをみんなが理解していくことが必要だと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>潜在している自殺経験者、自殺未遂者への支援体制については今後の課題です。救急病院、消防、警察等と連携し、地域医療体制の強化を図ってまいります。</li> <li>御提案のとおり、体験談等を聞くことで理解を進めていくことは大変重要と考えます。したがって 21 ページ (2) ②課題の再確認に「自殺は誰もが考える可能性があることと、そこから立ち上がることができることを市民が理解していく取組が必要です。」と追記します。また、方向性及び目標 ■現状や相談窓口の周知及びうつ病等の啓発に「誰もが自殺を考える可能性があることを市民が意識できる研修機会の充実」と追記します。</li> </ul>	有

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え方	修正の有無
8	全般 心の教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一番大切なのは、自殺したいと思わない心を作ることではないでしょうか。小さい頃から「自分を肯定し、他人を肯定する」教育が必要であり、また親世代においても「子どもを否定しない子育て」をしていくことが重要だと思います。</li> <li>・地域の方々においても普段から声をかけあうまちづくりが心の影を払拭してくれることに繋がると思います。</li> <li>・「死ぬことは決して楽になることではない」という認識、何より死ぬ気になればどんな生き方だってできるんだという意識付けも必要かもしれません。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成29年7月に見直しされた自殺対策大綱において、子どもの心の教育、「SOSの出し方に関する教育の推進」が基本施策に位置づけられました。</li> <li>・御提案のとおり、自殺したいと思わない心づくりが大変重要です。また、子どもの自己肯定感を高めるための家庭教育の大切さを伝えていく必要があります。したがって、18ページ(3)方向性及び目標に、「子どもの頃から自分を肯定し他人を肯定できるよう、家庭や学校における子どもの心づくりを進めます。」、「育てにくさを感じたり、孤立しがちな親への支援とともに、前向きに子育てをしていくことができるよう、妊娠期からの途切れのない支援にむけた環境づくりに努めます。」と追記します。</li> </ul>	有
9	モニタリングの目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な数値目標が入った方が評価をしやすいと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「自殺者数をゼロにする」ことが最終的な目標です。そのために、今後取り組むべき支援や環境づくりを評価するための指標であり、地域の実情に応じた指標であることから、現段階で参考となる数値の目安がなく、新潟県自殺対策計画を参考にして現状からの「増加」「減少」と表現いたしました。今後の国の自殺対策の方向性や指針に基づき、進捗状況をふまえて検討していきます。</li> </ul>	無